



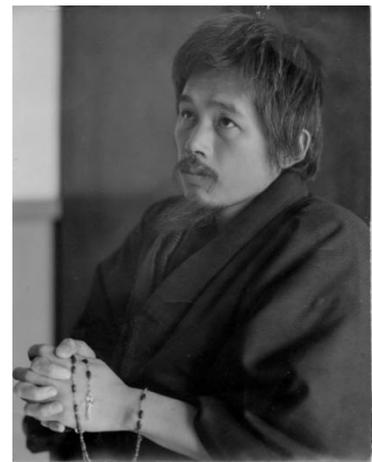
教会報

永井 隆 博士のこと

昨年3月、コロナがヨーロッパで爆発的感染を起こしていた頃、イタリアの無人の聖堂に並べられた柩の前で祈り、聖水を振りかける聖職者の姿が動画で映し出されていました。

「医療現場の最前線に医師や看護師がいて、そのうしろに聖職者がいる」とある司祭は語っています。フランシスコ教皇は「コロナ感染の人々に会いに行く勇気を持とう」と呼びかけられました。そして多くの聖職者がコロナ感染症にかかり、60人以上亡くなられたというニュースを聞きました。痛ましい限りです。

ところで、ことしは永井隆博士が帰天されてから70年になります。長崎医大の医師であった永井博士は爆心地から700メートルの地点の職場で原爆に遭遇しました、一瞬のうちに愛妻を失い、みずからも重傷を負い原爆症に苦しみながら、身を挺して被爆者の治療に当たったという話は、みなさまご存知だと思います。「この子を残して」「長崎の鐘」など多くの著書を残されています。博士は熱心なカトリック信者で、みずからの境遇を「神のみ摂理」と受け止め、被爆者の心に寄り添い治療を続けられました。病が重くなり（博士は原子病と言っています）狭い空間に寝たきりの身になっても、数々の執筆を続けられ平和と愛を訴えられたのです。博士の居所は「如己堂」と名付けられて、今でも保存されています。如己堂（にょこどう）とは如己愛人（自分と同じように人を愛せよ）という聖書の言葉から採られています。1951年（昭和26年）5月、博士は43歳の若さで帰天されました。葬儀には2万人が集まり、長崎市内中の鐘が鳴り響いたと伝えられます。生前はローマ教皇の特使のお見舞いを受けられ、ヘレンケラー女史の訪問、昭和天皇も長崎訪問の折に親しくお言葉をかけられたということです。



コロナ下のイタリアの聖職者、長崎の永井博士、いずれも修羅場において我が身をかえりみず、弱い人々のために尽くされたという相通ずるものがあります。

パンデミックは衰えを知らず、受けたい医療を感染者が受けられない状況にも陥っています。私たちはひたすら祈るのみ。出口のない戦いはどこまで続くのでしょうか。（編集部）

写真は「ロザリオをまさぐる永井博士」長崎永井隆記念館提供

10月の主日ミサ予定表です。緊急事態宣言が9月末で解除されました。なお、週報や教会からの最新の情報にご留意下さい。

日	時	地区	日	時	地区
10月2日(土)	18:00	地区を問わず	10月17日(日)	10:00	第2グループ
10月3日(日)	7:30	地区を問わず		11:30	第1グループ
	10:00	第2グループ	10月23日(土)	18:00	地区を問わず
	11:30	第1グループ	10月24日(日)	7:30	地区を問わず
10月9日(土)	18:00	地区を問わず		10:00	第1グループ
10月10日(日)	7:30	地区を問わず		11:30	第2グループ
	10:00	第1グループ	10月30日(土)	18:00	地区を問わず
	11:30	第2グループ	10月31日(日)	7:30	地区を問わず
10月16日(土)	18:00	地区を問わず		10:00	第2グループ
10月17日(日)	7:30	地区を問わず		11:30	第1グループ
第1グループ	灘北1・北/三田 灘北2・阪神 灘南・神戸西				
第2グループ	灘西/中央 東灘北1 東灘北2/芦屋 東灘南				

教会活動の動き（7月度小教区評議会以後）

宣教部講演会

主日ミサ後に動画再生視聴の予定だが、公開ミサ中止の場合もあり流動的
黙想会

11月13日(土) 指導 酒井司教の予定

祈りと音楽の集い

10月3日は延期 11月または12月に感染状況を見て決定

当教会オルガン奉仕者の演奏の予定

社会活動部学習会

対面で実施できるまで延期、講師は下川神父様の予定

なお、神戸シナピス学習会は11月22,23日の「正義と平和全国大会」に参加する
形とする。参加申し込みは10月15日まで延長されている。

神戸市民クリスマスの終了について

エキュメニカルな活動で、クリスチャンでない一般市民にも親しまれてきた神戸市民クリスマスは、コロナのため昨年は中止、今年度についても実行委員会協議の結果、今後の開催は不可能との結論になり、この5月に実行委員会が解散することになったということです。繰越金は「ひょうご新型コロナウイルス対策支援基金」など各方面に献金されま
す。

趣味百景

俳句に出会って

2004年頃だったでしょうか、六甲教会に俳句の会（二水会）が出来たと聞き、少し遅れて思い切って参加しました。そこで素晴らしい人たちと出会い、多くのことを学びました。それまで俳句を作ったこともなく、それほど関心を持つこともなかったのですが、参加するうちに、その魅力にはまり奥深さを知って長く続けることになりました。とくにプロの指導者がいるわけでもなく、おしゃべりも多い和気あいあいとした集いでした。でも、何より日本語の美しさに気づき、自然や人や物事に対する観察眼を養い、ことばの優しさと思いやりに心が癒されることがしばしばでした。俳句は、四季折々の風景や暮らし、いままであまり目に留めていなかった雑草の花、小さな虫たちでもその愛おしさを五七五にまとめます。また、吟行にでかけて、自然の中で俳句を詠むこともあり楽しい経験でした。二水会はもともと高齢者が多く出席者が減ってゆき、記念の句集を作って解散となりました。コオロギを見れば愛おしそうにコオロギを詠まれた方、ベランダで育てた花を詠まれたとてもやさしく素敵な方などいまでも句とともに懐かしく思い出しています。私はその後も神戸市内にある別の句会を紹介され、ボツボツながら続けています。何年経っても上達しないのですが、一年に一句でも良い句が出来ればという気持ちで作っていくつもりです。

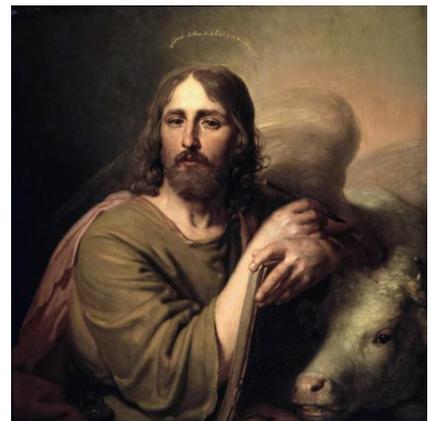


巡り来てまた道の辺の曼珠沙華 アンナマリア 早見紀美恵

写真は俳句同好会二水会のある日（写真右手前が筆者）

今月の聖人 福音記者ルカ

「ルカによる福音書」は三つの共観福音書中最も読みやすい福音書ではないでしょうか。パウロに同行して書いたと言われる「使徒言行録」もルカの著述です。記念日は10月18日です。出生は不明ですが古代シリアのアンティオキアで生まれたギリシャ人ということです。ルカの福音書の記述はヨハネのそれと比べて神秘性は薄いところがありますが、親しみやすく聖書入門にはふさわしい読み物と言えます。ルカ14章1～6は安息日にイエスが病人を癒す場面が記述され、（マタイ、マルコにはこの記述がありません）旧約の呪縛から脱却しようというルカの開明的な思いが込められているように思います。たぶん気づかしかつたパウロと何回も同行したということは、人とうまく付き合う処世術も心得ていたのではないかと推測されます。マルコの才能を持ち、画家とも医者でもあったと言われ、東京の聖路加病院はこの名に因んでいます。聖ルカの肖像は多数ありますが、なんとなく私のイメージにふさわしいものを選んでみました。（詫 洋一 記）



本を読む

柴田章彦

最近読んだ本の中のうち2冊を紹介します。

1、「科学と宗教と死」加賀乙彦（集英社新書）

ご存知カトリックの作家で医師、学者である氏は、主著の長編小説で高名ですが一般にはなじみが少ないかも知れません。その点この本は平易に一般向けに、氏自身の戦時下の少年時代の思い出から、近年の2つの大地震の経験、フランス留学、それに人との出会い（生と死）や本のことが平易に語られているので、この人に親しみを持つ上で役に立つと思います。

2、「サピエンスの未来」立花隆（講談社現代新書）

立花隆氏は調査に基づく数々の著作で、世間を驚かせ啓発してきた評論家で知の巨人ともいわれます。最近亡くなりましたが、書店で何気なく手にとったこの本に、なじみのあるティヤール・ド・シャルダンの名が出てくるので驚きました。よく見るとこの本は大方、シャルダンの進化思想を肯定的に、詳しく述べているのでますます驚きました。シャルダン（1881～1955）はフランスのイエズス会の司祭ですが、科学者として古生物学の研究から人類、ヒトの脳、生命、宇宙、地球が何万年の昔から何万年の未来へと向けて進化するように出来ていることを、観察と考察の結果あらわしました。すべてを進化の相の下に見るこのユニークな思想に、立花ほどの人がひとかたならぬ思いを持ったのは、分断、紛争、災厄の絶えない終末的現代にあって、これを乗り越える知の羅針盤をそこにみたらにほかなりません。

教会訪問 津和野カトリック教会（島根県）



撮影 詫 洋一

津和野は乙女峠の殉教のお話でも有名な土地。山深い山陰の小京都ともよばれる静かな町です。以前、教会の遠足で山口教会から津和野教会まで巡ったことがありました。見事な桜の季節でした。教会は一般の観光ツアーのコースには入っていませんが、なまこ壁の土塀に囲まれた1931年献堂の石造りの聖堂です。中は畳敷き、靴を脱いでミサに与ります。主任司祭の山根敏身神父が、おととしの9月当教会で講演して下さいました。

六甲春秋 中村健三神父さまのエッセー(第28回) マルタとマリア

9月に入ってかなり過ごし易くなった、雨がチョコチョコ降るからなのだろう。熱帯夜ともそろそろオサラバ。しかし、それに伴って落ち葉の煩いが始まった。みどりの葉が盛り上がるように茂っている中で、ところどころ黄色に変わった葉っぱが見られる。これから数か月をかけて、静かに休みなく落ち葉が舞い落ち、地上に降り敷くことになる。今朝もまた懸命にホウキで、取り集めてくださる人々が居られる、有難いことだ。

さて10月5日の朝ミサでは、ルカ10章のマルタとマリアの出来事・福音が読まれる。イエスはマルタがどうすることを望んでいるのか、マルタはどう応えたのか。平凡なありきたりの台所仕事を止めて、マリアのようにイエスの足元で教えを聞く事を選んだのか、それとも？ イエスの真意をめぐって多くの異なる解釈があり、今日まで多くの議論が続けられてきた。生まれて初めて福音書を読んだ或る学生の感想はかつて、これではマルタが可哀そうだと述べた。或る修練長は、活動にたいする観想の優位性が言われていると語った。さて、あなたは どう読み解くのか。

以下に私ならではの捉え方を紹介しよう。先ずこれがルカの編集に依れば、何と10章以上を費やす旅の段落の初めに起こったことに注目したい。往けば再び還り来ない、イエスの旅の最初の出来事である。彼をもてなす食事を供するのも、イエスの教えに耳を傾けるのも今度限り。「イエスは天に上げられる日が近づいたので、エルサレムへと歩み行こう・ポレウオマイと、顔を引き締めた」。次に、イエスの言葉・語りかけを詳しく調べてみよう。マルタへの呼びかけについて、ルカ福音書の中でイエスに二回も名前を呼ばれた人は、ペトロとマルタしかいない。いずれもイエスの溢れるような愛や哀しさが表れ、いずれの場合も単なる叱責

や非難ではない。しかしイエスがどうしても分からせ糺したかった点は、マルタの思い煩う心である。自分をマリアと見比べて、自分だけが損な目をし、務めを取り替えたいとの願いは、まさに思い煩い・我がままそのもの。必要なことはただヒトエに、旅するイエスを心からもてなすこと。マリアが彼女なりに良い方を選んだように、マルタ・あなたも良い方を選んだ、自分だけが貧乏くじを引いたと卑下したり、無理にも手伝わせようと八つ当たりせず、喜び勇んで台所に戻り調理に腕をふるってもらいたい、というのがイエスの本意では。さらにまた東洋的な修行の伝統から言えば、台所で忙しく立ち働くことは師匠の教えを脚下で聞き学ぶことに劣るとは、決して言えない。「必要な事はただ一つ」と、「マリアは良い方を選んだ」というイエスの言葉をどのように解釈するのか、マリアへの称賛なのか、むしろマルタへの謎かけなのか、意味合いがすっかり変わってしまう。イエスの語りかけを聞いて、二人の姉妹はどのように応えたのか。福音書は聞き手のその後を書いていないが、通り一編の解釈や公式見解を越えて、自らの捉え方を大いに競い合ってもよいのでは。私に託され私の選びに委ねられた「良いものは、とは」何か、今ここで私が行える「必要なただひとつ」とは何か。イエスの光・照らしを是非とも頂きたい。ところで日々、たいして映えのしないオサンドンについて、女性群から多くの苦情や不平を聞くが、これほど大切な掛け替えのない聖務も他にあまり無いのでは、誰が担うかを大いに工夫したとしても。今日も明日も旅してゆくイエスに付き従い、私もまた旅する身であることを弁えたい。 合掌

☆ポレウオマイはギリシャ語で「行く、赴く」の意味

【2021年10月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
					初金曜日ミサ 7:00 10:00 聖体顕示	
3	4	5	6	7	8	9
年間第27主日					◎東灘北2 芦屋	
10	11	12	13	14	15	16
年間第28主日 小教区評議会 13:00					◎東灘南	
17	18	19	20	21	22	23
年間第29主日 ◎日曜班	聖ルカ福音記者					
24	25	26	27	28	29	30
年間第30主日 世界宣教の日				聖シモン 聖ユダ使徒	◎灘北1 北三田	
31						
年間第31主日						

◎は掃除当番地区です。

編集後記

- 緊急事態宣言は9月一杯で解除されましたが、コロナは終息したわけではありません。マスク、消毒、ディスタンスを守り、ともあれミサ再開を喜びましょう。
- 神戸市民クリスマスが静かに幕を閉じました。師走の町を聖歌を歌いながらぞろぞろと練り歩いたことを思い出します。集合場所の「ホッとコーナー」というココアの香りも懐かしい…。
- ミサの変更や葬儀のお知らせが、メール連絡網に加入していない方に届かないケースがあります。地区会の協力でカバーされているはずが実態はうまく行っていないのでは。「だれも置き去りにしない世界」を実践しましょう。

<p>次回11月号の発行は10月30日(土)です。 原稿は毎月15日ごろまでに教会受付へ直接ご持参いただくか、FAXやメールでお願いいたします。皆様からの原稿をお待ちしています。あわせてご意見もお寄せ下さい。広報部</p> <p style="text-align: center;">http://www.rokko-catholic.jp</p>	<p>六甲カトリック教会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21 電話 078-851-2846 FAX 078-851-9023 Eメール renraku@rokko-catholic.jp 発行責任者 アルフレド・セゴビア 編集 広報部</p>
--	--